

老舗・むぎ進学教室にとってのキラークンテンツ マンツーマン英会話「KYO-KAI OnE」とは？

中学生は必修受講で卒業までに英検準2級を！ 今後は全小学生も必修受講へ

静岡県浜松市を中心に11教場を展開するむぎ進学教室（櫻井勇也塾長）は創立44年を迎える老舗塾。「できない子はいない。誰もが必ず伸びる」を信念とし、地域の教育を根底から支えてきた。同塾が英語の4技能習得のため導入したオンラインのマンツーマン英会話「KYO-KAI OnE」は現在、全中学生に必修受講しているが、今後は小学生へも拡げていきたいと考えている。同塾がキラークンテンツと位置づける「KYO-KAI OnE」とは？活用法や今後の展望を伺った。



むぎ進学教室 櫻井勇也 塾長

最大の魅力は教科書の進度、内容に合わせたカリキュラム

同塾がオンラインのマンツーマン英会話「KYO-KAI OnE」を導入したのは英語の改革がきっかけだ。これまでの文法中心の英語教育から「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく鍛え、コミュニケーション



「KYO-KAI OnE」で学習する生徒たち

の会話を楽しめるレベルにまで成長している。講師は生徒の状況を察し瞬時に生徒のレベルに合わせた対応をしてくれるため、萎縮せずにコミュニケーションを取り組んでいるようだ。英語が得意な生徒や成績上位者も積極的に会話しているが、こちらは「自分の力を試したい」という気持ちがあるように見える。リスニングに関して塾生の成績はダイレクトに点数に反映され、高校入試後のアンケートでも「ネイティブの英語に慣れていたから安心して入試に臨めた」「しっかり聞き取れた」との声が挙がっていた。「リスニングは得点できる」と

シヨン能力を高める英語教育への移行が本格化したことから対応を模索していた。従来の英語の授業では問題を解く力は養えても「コミュニケーション能力が養えない。そのため、塾内には他の英会話教室と併用している生徒が増えてきていた。「塾内でワンパッケージとして英語の4技能を養ってほしい」と教材を探していたところ、展示会で「KYO-KAI OnE」に出会った。「KYO-KAI OnE」は教育開発出版株式会社（系井幸男代表取締役、東京都）と株式会社スタディラボ（地福武史代表取締役、東京都）が提供するオンライン英会話。学習塾や学校用の教材を手がける教育開発出版のテキストをベースにカリキュラムが組まれている。導入に至った決め手について櫻井塾長は「英語の発音



むぎ進学教室 宮代秀樹 部長

がきれいであったことやフリートーク中心の従来の英会話と違い、教科書の進度や内容を実際の「コミュニケーション」に落とし込めること。何より、英語の「コミュニケーション」能力向上のみならず、定期テストや高校入試に対応できる力を同時に養うことができることを考えたから」とその魅力を語り、また「スタディラボの地福社長が塾業界出身である影で、同社の塾に寄り添ってくれる姿勢に惹かれました」と付け加えた。

中学生は必修受講に保護者への周知と理解に一番力を入れた

現在、「KYO-KAI OnE」をメインで使用しているのは中学生。中学生は全員が必修受講で月2回、英語の授業を25分延長してレッスンに充てている。オンライン英会話を自塾のカリキュラムにどう組み込むか、導入にあたっては各塾が「一番悩むところ」だが、同塾では導入済みの塾へ見学に行き、相談にも乗ってもらった上で決定したとのことだ。

得点にもつながり英語を好きになる生徒が増えた

英語が苦手な生徒や内気な生徒を心配していたが、いざ始めると授業中は会話しない生徒も、普段下ばかり向いている生徒もすっかりと会話していた。最初は恥ずかしさやうまく話せないことへのジレンマのようなものが見られた生徒たちも、回数を重ねるごとにネイティブの先生と

いう自信を持ってテストに臨めることで結果が出るのももちろん、英語そのものが好きになる生徒も増えていく。文法や単語を正確に覚えることも必要だが、まずは生徒に興味を持ってもらうこと、英語を好きになってもらうことが第一だ。

目標は中学卒業までに英検準2級取得！

「KYO-KAI OnE」導入後には中学2年生で英検準2級に合格する生徒も出てくるようになり、その数は確実に増えているそうだ。ただ、「頑張っただけで英検とらうよ」という雰囲気ではなく、「中学卒業までに英検準2級取得を目指したい」と考える塾側にとっては、生徒のモチベーションアップが目下の課題となっている。「KYO-KAI OnE」以外にも英検対策やリスニングの専

将来的には小学生にも必修受講させたい

今年から中学校の指導要領が改訂され英語が大幅に難化した。テストの平均点や成績の分布を見ると上位層はごく一部のみ。中間層がなく、多くが下位に固まっている状態だった。英語で大き



営業担当の森 勇介氏(中央)と

くつまずく生徒が増えることは容易に予想される。それを踏まえ同塾では「将来的に「KYO-KAI OnE」を小学生全員に必修受講させたい」と考えている。「やっておけばよかったと後悔しないよう、小学生にもチャンスをつくらせてあげたい」とのことだ。同塾はレッドオーシャン化した中学部門、高校受験市場から少し裾野を広げ、小学生を集客しつつ確かな学力を身につけて中学に上がってもらおうという方針へ数年前より転換しており、生徒数の内訳では小学生が一番多い。そろばん教室や書道、子ども英会話に玉井式、速読など習い事需要を取り込みつつ学力を底上げするコンテンツを揃えている。そろばんや書道の申し込みに行って「英会話も受講していただきます」と告げられることを誰が想像するだろうか。それでも必修化するということは、英語の「コミュニケーション能力が絶対的に必要な能力であり、「KYO-KAI OnE」で身につけられると確信しているからにほかならない。

オンライン英会話OLECO
KYO-KAI OnE
のお問い合わせ
(株)スタディラボ
http://studylab.co.jp/
TEL.03-6902-1151